

公的発言の前にはメモの作成を

— CRT ラジオ栃木放送「開倫塾の時間」35周年を迎えるにあたって—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：CRTラジオ栃木放送「開倫塾の時間」が今年の3月6日(土)で35周年を迎えるそうですね。おめでとうございます。

A：(1)ありがとうございます。毎週土曜日の午前9:15～9:25に放送中のこの番組は、時々ゲストをお招きしますが、私一人で担当して35周年を迎えます。

(2)番組開始から数年間は、足利市にあったCRTの支局から「生放送」をしていました。

(3)番組の内容は、「社会人を含め効果の上がる勉強の仕方を具体的にお話する」ことです。私があちこちに行き、勉強したことも含めてお話していますので、この「私塾界」と同じ「林明夫の歩きながら考える」という副題(サブタイトル)もつけて頂いています。

*速記録や番組用に作成したメモは、全部ではありませんが、開倫塾のHP、
<https://kairinjyuku.jp/jyukuchou> の林明夫のコーナーに掲載してあります。よろしければご覧ください。

Q：やはり放送をする前にはメモをおつくりになるのです。

A：(1)中波のラジオ番組(今はFMやインターネットでも放送中)ですので、「公の発言」としてふさわしい内容となるよう、何日か前から何をお話するかを考え、必ずメモを作ります。

(2)また、放送直前まで、メモに加筆訂正を加え、マイクに向かっています。

(3)HPに掲載の場合には、加筆訂正を加えています。

Q：ところで、東京オリンピック・パラリンピック組織委員会の森喜朗会長の「審議会のメンバー構成」について話題になっていますが、どうお考えですか。

A：(1)「女性委員の発言が長いから」という議論は論外と考えます。十分に反省して頂きたく希望します。

(2)「審議会」で私が大切だと考えるのは、「審議会」の委員の発言内容です。ラジオ番組と同じく、様々な「審議会」は「公の場」ですから、重要なのは「発言時間の長さ」ではなく、一人一人の委員の「発言内容」だと考えます。

(3)政府や自治体、様々な社団法人などの理事会や審議会はすべて録音され、議事録が作成され、関係者に配布、HPで公開される場合もあります。

(4)審議会には、首相や知事・市町村長や各団体の長からの諮問に答えるなどすべて「社会的使命(ミッション)」が課されています。

(5)ですから、審議会の委員には、その会議等の「社会的使命(ミッション)」を果たすため、日

頃から調査・研究を重ね、審議会に臨む公民としての社会的義務があります。自分自身の発言に責任を持ち、発言・意見交換をし、その結果が議事録に掲載されるに値する行動をしなければならぬと考えます。

Q：林さんは、そのような審議会で発言したことがあるのですか。

A：(1)10 数年前に、参議院の憲法調査会で「平和と安全保障」に関する公述人を公募していただいたので応募させて頂き、公述人として発言。憲法改正をするにあたり、①憲法前文に「人間の安全保障条項を入れること」、②法律や省令だけで緊急事態に対処するのではなく、多くの国と同様、「国家緊急権の規定を入れること」、③憲法改正の条項が存在するのに、憲法改正の手続きを定めた法律がないのは憲法上の不作為なので、「憲法改正国民投票法を早急に定めること」。この3点を15分ぐらい述べさせて頂き、参議院議員の方々と15分ぐらい意見交換をさせて頂きました。

(2)この15分間のプレゼンのために、約1か月間準備させて頂きました。

(2)20年前には栃木県知事の諮問機関である「栃木県IT経済戦略会議」と「栃木県経済活性化戦略会議」の委員として、又、10年前には足利市長の諮問機関である「足利市経済活性化会議」の会長、足利市教育委員会の「足利市英語教育推進プロジェクト会議」の委員として、それぞれ1～2年ずつ活動させて頂きました。

*毎回の会議ごとに事前に示された論点について、自分なりに勉強。さらには、それまでの議事録や当日配付される予定の資料などを事前に、又は、当め早めに会場に行き下読み。自分の考えをメモにまとめ、発言させて頂きました。

*発言する際には、たとえ何行かでも、発言すべき内容を、必ず、メモをしてから発言いたしました。

(3)7～8年前から、足利商工会議所の議員として、日本商工会議所の女性・シニア・外国人材活躍推進専門委員会に派遣され、委員を拝命。政府への提言作成や各省の担当責任者との意見交換を行っています。

*ここでも、発言する際には、今まで議論された議事録や資料に加え、事前にメールで送られてくる膨大な資料を読み込み、自分で発言する内容を文章にまとめてから発言させて頂いております。議論の結果は、外国技能実習生に関しての2年前の政府の「骨太方針」に大きく反映され、嬉しく思います。

Q：公の場で発言する前には「必ずメモを作る」ですか。なかなか面白そうですね。

A：(1)外務大臣をお務めの衆議院議員の茂木敏充先生は、地元ご出身のため、私が担当するCRTの番組には毎年3回くらい、20年近くご出演頂いております。

(2)茂木先生は、事前に番組の内容について秘書の方を通じてお打ち合せすると、当日は、ご自分でお作りになった、かなり詳細なメモを収録直前までご覧になり、何も見ずに、メモなしで、私の質問にお答えくださっています。

(3)茂木先生は必ず準備をし、直前まで読み込み、何も見ないでわかりやすく発言する。毎回、わかりやすく素晴らしい放送内容と高い評価を頂いております。放送内容速記録としてHPに掲載させて頂いておりますので、是非ご覧ください。

(4)イギリスの元首相のブレア氏の発言はなぜ素晴らしいのかを、参議院議員の猪口邦子先生に個人的にお聞きしたことがあります。「ブレア氏も発言や演説の直前までメモを作り続け、そのメモをすべて頭に入れ、何も見ないで発言するからですよ。林さん」との猪口邦子先生のお答えでした。

Q：放送をお聴きの皆様や学習塾・予備校・私立高校の経営幹部の皆様にお伝えしたいことはありますか。

A：(1)私の尊敬する地元の大先輩に、栃木県経済同友会の代表幹事や国際ロータリークラブのアジア代表理事を務められた、株式会社板通元会長 故板橋敏雄さんがおられます。板橋さんは、どのような少人数の会合でご挨拶やご発言をなさる場合でも、「小さなノート」にその会合の趣旨や目的、その日のテーマ、自分の伝えたいこと、参加者への希望などを明確に書かれ、頭にすべて入れ、ほとんど何も見ずにご発言なさっていました。英語でも同様にご発言なさっておられました。

(2)おそらく多くの先生方も公的な場でのご挨拶やご発言に際しては、メモを作成し、子どもの教育、組織の社会的使命の達成のために質の高い内容を目指しておられると思います。

(3)これをさらに発展させ、国や自治体、様々な公的な場でご発言なさり、社会の発展に貢献なさることを期待いたします。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も僭越ながら、先生方がお読みになれば必ず参考になる本を何冊か紹介させていただきます。

(1)このコロナ禍の世の中で最も大切な生き方を示す 1冊は、中村天風述「成功の実現」日本経営合理化協会 1988年9月7日刊です。中村天風述「盛大な人生」と「心に成功の炎を」、「いつまでも若々しく生きる」いずれも日本経営合理化協会刊の4冊をコロナ禍の間中、読み続けければ、どのような環境下であっても必ず未来は開けます。

(2)以上のダイジェスト版が中村天風述「君に成功を贈る」日本経営合理化協会 2001年刊と考えます。とても読みやすく、1冊で積極的な人生が身に着きます。

鈴木進著「中村天風『勝ちぐせ』のセオリー、自分の中に信じられないほどの力が出る！」三笠書房 1994年12月31日刊も是非ご一読を。

(3)3冊目は、白洲次郎著「プリンシプルのない日本」メディア総合研究所 2001年5月17日刊です。イギリス紳士、「カントリージェントルマン」とは何かがよくわかります。

(4)4冊目は、2021年2月14日から始まったNHK大河ドラマの主人公渋沢栄一自伝述／長幸男校注「雨夜譚(あまよがたり)」岩波文庫、岩波書店 1984年11月16日刊です。大河ドラマを見ながら渋沢翁の自伝を繰り返し読むのも素晴らしい勉強です。ちなみに、日本経済新聞朝刊で連載が再開された伊集院静作「みちくさ先生」を読みながら、夏目漱石と正岡子規の「往復書簡集」岩波文庫や漱石の作品を少しずつ再読しています。TVや新聞小説に導かれながらの読書も面白いと思う昨今です。

以上